

鳥類



シジュウカラ

- 生物分類：スズメ目シジュウカラ科シジュウカラ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：市街地から山地までの樹林地などで一年中比較的好く見られます。果実、種子、昆虫類などを食べます。小さい体で素早く動きます。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日



カワラヒワ

- 生物分類：スズメ目アトリ科ヒワ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：農地、草原や疎林、樹木が比較的多い公園や住宅地などでほぼ一年中見られます。主に草木の種子や昆虫を食べます。夏の繁殖期以外は群れていることが多いです。
- 撮影者：よしき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年12月15日



ヒヨドリ

- 生物分類：スズメ目ヒヨドリ科ヒヨドリ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：市街地から山地までの樹林地などで一年中よく見られます。果実、花蜜、昆虫類、小型の爬虫類や両生類など何でも食べます。
- 撮影者：よしき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年12月15日



ハシボトガラス

- 生物分類：スズメ目カラス科カラス属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：市街地から平地、山地などで一年中よく見られます。雑食性で何でも食べます。嘴が太く、額が盛り上がっているのが特徴のカラスです。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日



アオサギ

- 生物分類：ペリカン目サギ科アオサギ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：「蒼鷺」と書き、青みがかった灰色の姿をしています。大型のサギで、ほぼ一年中見られます。主に河川や水田などの水辺の浅い場所で小魚やエビ、カエルなどを食べます。
- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日



コサギ

- 生物分類：ペリカン目サギ科コサギ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：絶滅危惧Ⅱ類（VU）※1
- 種の特徴：小型のサギで、「白鷺（しらさぎ）」と呼ばれるサギの一種です。ほぼ一年中見られます。主に河川や水田などの水辺の浅い場所で小魚やエビ、カエルなどを食べます。
- 撮影場所：本郷
- 撮影日：2017年12月4日

爬虫類



キバラガメ または ミシシippアカミミガメ黒化個体

- 生物分類：カメ目ヌマガメ科
- 由来：外来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：ペット用に輸入されたものが捨てられて野生化した外来種です。写真の個体には、ミシシippアカミミガメに特徴的な顔の赤い斑が見られないため、キバラガメかミシシippアカミミガメの黒化個体のいずれかであると考えられます。
- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日



ミシシippアカミミガメ

- 生物分類：カメ目ヌマガメ科アカミミガメ属
- 由来：外来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：通称「ミドリガメ」としてペット用に輸入されたものが捨てられて野生化した外来種です。全国の池や川で最もたくさん見られるカメになってしまいました。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日

魚類



コイ

- 生物分類：コイ目コイ科コイ属
- 由来：外来種
(一部の地域では在来種もいるとされています)
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：比較的流れが緩やかな川や池などに広く生息しています。何でも貪欲に食べてしまうため、無秩序な放流によって元の生態系を破壊してしまうこともあります。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日

昆虫類



ナツアカネ

- 生物分類：トンボ目トンボ科アカネ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：アカネ属（赤とんぼの仲間）のトンボの代表種です。秋になると都内でも各地できれいな色のアカトンボを見ることができます。ただし、近年、全国的に見られる数が激減しています。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日



ハラビロカマキリ属の卵鞘

- 生物分類：カマキリ目カマキリ科ハラビロカマキリ属
- 由来：在来種または外来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：ハラビロカマキリは樹上性のカマキリで、昔から東京都内にも生息していましたが、近年、外来種のムネアカハラビロカマキリが日本国内で分布を広げているため、この卵鞘はムネアカハラビロカマキリのもかもしれません。
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年11月10日



エンマコオロギ♀

- 生物分類：バッタ目コオロギ科エンマコオロギ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：夏の終わりから盛んに鳴き声が聞こえるようになるコオロギの代表種です。頭は丸く光沢があり、眼の上には眉の様な白い部分が見られその模様が閻魔様を思わせることからエンマコオロギの名があります。学名にも「emma」が使われています。
- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日



モリオカメコオロギ♂

- 生物分類：バッタ目コオロギ科オカメコオロギ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：一般に林床に見られることが多いことからモリオカメコオロギとの名があります。よく似た種類で草地にはハラオカメコオロギが見られます。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日



カネタタキ

- 生物分類：バッタ目カネタタキ科 Ornebius 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：樹上性の種ですが、あまり森林では見ることがなく、街の街路樹や庭木での確認の方が容易な種です。秋の最も遅い時期まで鳴き声を聞くことができる種です。その鳴き声がまるで鉦（かね）を叩くような音であることから「カネタタキ」と呼ばれています。
- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日



クサカゲロウ科の一種

- 生物分類：アミメカゲロウ目クサカゲロウ科
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：クサカゲロウの仲間には互いによく似た種類がたくさんおり、その一部の種で臭い匂いを放つことが名前の由来です。この仲間の卵は神秘的な花のような姿から「うどんげ（優曇華）の華」と呼ばれています。
- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日



センチコガネ

- 生物分類：コウチュウ目センチコガネ科 Phelotrupes 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：獣糞や死骸などを食べます。食べ物のにおいを感じると飛んで餌までたどり着きます。いわゆる糞虫の仲間ですが、地上で糞の玉をつくることはありません。
- 撮影者：たいき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月27日



キイロテントウ

- 生物分類：コウチュウ目テントウムシ科 *Meligethes* 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：きれいな黄色の翅をもったテントウムシです。テントウムシは肉食する種が多いですが、本種は成虫・幼虫ともに植物のうどんこ病の病原菌などの菌類を食べています。
- 撮影者：たいき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月27日



ヒメハラナガツチバチ♀

- 生物分類：ハチ目ツチバチ科ハラナガツチバチ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：キンケハラナガツチバチに比べ目立たない色をしています。オスの触角はメスの3倍くらい長くなります。ツチバチの名のとおり、土中にあるコガネムシの幼虫を見つけると地中を掘り進めて卵を産み、ツチバチの幼虫はコガネムシの幼虫を食べて育ちます。卵を産むために土中に潜る様子からツチバチと呼ばれます。
- 撮影場所：文京シビックセンター
- 撮影日：2019年11月19日



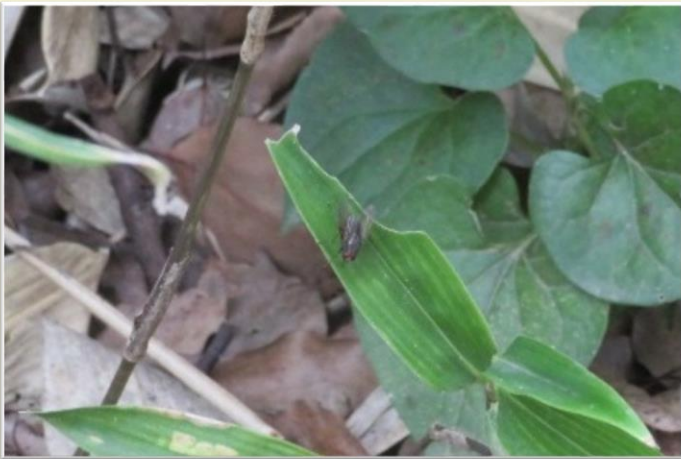
キンケハラナガツチバチ♀

- 生物分類：ハチ目ツチバチ科ハラナガツチバチ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：ツチバチの仲間の中では、体の黄色い帯が良く目立ち、胸にも黄色の長い毛が密生していることで他の種類と区別できます。オスの触角はメスの2倍以上の長さです。ハチの仲間は雄が刺すことはありません。
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年11月10日



ガガンボ科の一種

- 生物分類：ハエ目ガガンボ科
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：日本に生息するガガンボ科の仲間は約700種が記録されています。互いによく似た種類も多く、同定が困難な種類です。長い脚、長い翅を持ち、明かりに集まり、人の周りを飛ぶこともあります。人を刺すことはありません。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日



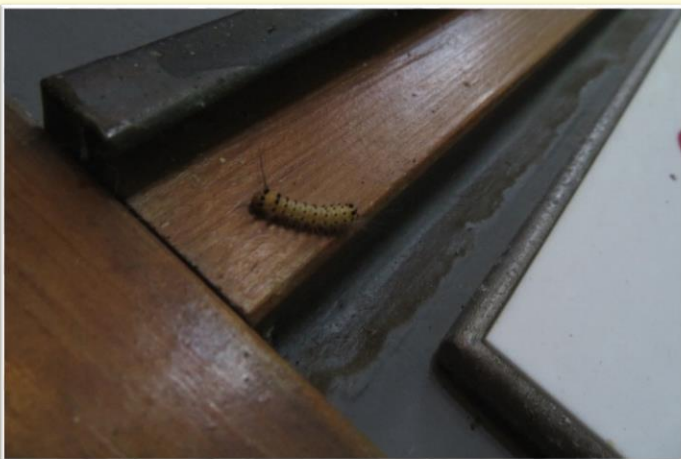
イエバエ科の一種

- 生物分類：ハエ目イエバエ科
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：イエバエの仲間は、日本国内だけでも1,000種を超え、似たような種類がたくさんいます。室内外問わず、周りには「五月蠅い(うるさい)」存在です。ハエの仲間の翅は2枚ですが、よく見ると後ろ翅の痕跡があります。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日



ミノガ科の一種

- 生物分類：チョウ目ミノガ科
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：ミノガの仲間には、いまだ名前のついていない種類がたくさんいます。それらのミノの形も様々です。大きくなるとミノにも特徴が出て同定できるようになるものもあります。メスは一生をミノの中で過ごします。
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年11月10日



タケノホソクロバ幼虫

- 生物分類：チョウ目マダラガ科 Artona 属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：ササ類にたくさんの幼虫がつき、葉を食べつくす様子がよく観察されます。幼虫のトゲが刺さるとかぶれることがあります。蛹になるときには色々なところまで移動します。
- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日



チャドクガ

- 生物分類：チョウ目ドクガ科ドクガ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：成虫は5~6月ごろ、8~10月頃の2回発生します。幼虫はツバキやサザンカに集団でみられ、触れると多くの人がかぶれます。本種は成虫にも幼虫時代の毒針がついていることもあり、注意が必要です。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日

クモ類



ビジョオニグモ

- 生物分類：クモ目コガネグモ科オニグモ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：他の多くのオニグモ類と同様、網の上方にある葉や軒等の下に住居をつくって潜んでいます。市街地付近の草地や樹林でも生息しています。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日



ジョロウグモ

- 生物分類：クモ目ジョロウグモ科ジョロウグモ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：秋になると、本種が大きなクモの巣を張っている姿がよく見られます。巣には大きなメス个体がいることが多く、このメスの腹部の様子が識別のポイントになります。
- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日

ダニ類



シラヒゲハエトリ

- 生物分類：クモ目ハエトリグモ科シラヒゲハエトリグモ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：人家や神社などの建物や樹木の隙間で袋状の巣をつくって生活し、歩き回って獲物を狩ります。
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年11月10日



ケダニ亜目の一種

- 生物分類：ダニ目
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：体色が赤く、表面に短毛が密生しているように見えるので、ケダニ亜目の仲間であると考えられます。「種」を識別するためには、顕微鏡を用いて体の特徴を観察する必要があります。
- 撮影者：たいき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月27日

ミミズ類



貧毛綱の一種

- 生物分類：貧毛綱の一種
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：陸生の大型ミミズ類はフトミミズ科、ツリミミズ科、ジュズイミミズ科に属するものが多く、今回の写真もそのいずれかに属すると考えられます。識別するためには、顕微鏡で拡大して観察したり、解剖して体の中の様子を確認したりする必要があります。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日



ヤツデ

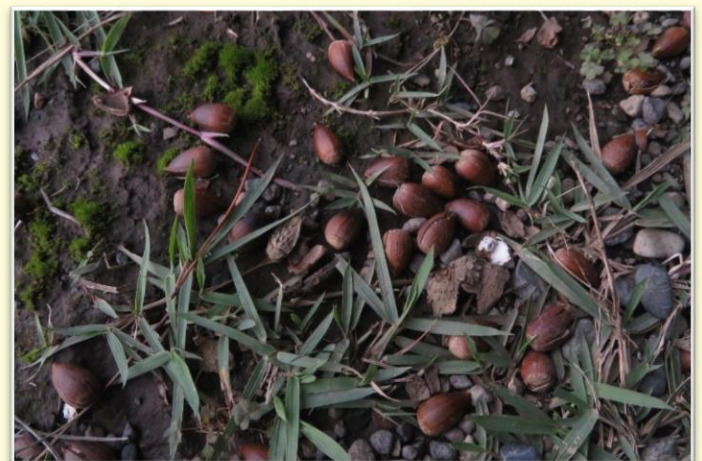
- 生物分類：セリ目ウコギ科ヤツデ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：林内に普通に見られる常緑低木で、庭木や公園樹に使われることもあります。別名は「テングノハウチワ」と言います。天狗のウチワのような葉をつけた低木を見かけたら、ほぼ間違いなく本種です。
- 撮影者：たいき さん
- 撮影場所：本駒込2丁目
- 撮影日：2019年10月27日

種子植物類



イチョウの実（銀杏）

- 生物分類：イチョウ目イチョウ科イチョウ属
- 由来：外来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：中国原産の裸子植物で、街路樹などとしてよく見かけます。原始的な植物で、生きた化石とも呼ばれています。本種にはオスの木とメスの木があり、銀杏が生えるのはメスの木だけです。
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年11月10日



スダジイの実（ドングリ）

- 生物分類：ブナ目ブナ科シイ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：沿岸～山地の比較的暖かい地域で普通に見られる常緑高木です。ドングリがかぶっている帽子のような部分を「殻斗（かくと）」と言い、はじめはクリのイガのように、殻斗がすっぽりとドングリを包んでいます。ドングリが成熟すると、上から3方向に裂けてとれてしまいます。
- 撮影者：たいき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月27日



アオキ

- 生物分類：ガリア目ガリア科アオキ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：林内に普通に見られる常緑低木で、庭木や公園樹にもよく使われています。本種にはオスの木とメスの木があり、秋～春に赤い実をつけていたら、それがメスの木です。
- 撮影者：たいぎ さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月27日



シロバナタンポポ

- 生物分類：キク目キク科タンポポ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：関東地方で白い花のタンポポを見かけたら、ほぼ間違いなく本種です。白花のタンポポは日本に数種類ありますが、本種は白花系の中では最も普通に見られる種類です。
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年11月10日



ケイトウ

- 生物分類：ナデシコ目ヒユ科ケイトウ属
- 由来：外来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：観賞用に栽培されている中国原産の一年草です。花期は秋で、鮮やかな花がよく目立ちます。花穂は帯化して鶏のトサカ状になることから鶏頭（ケイトウ）と呼ばれます。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：本駒込5丁目
- 撮影日：2019年10月14日



ミズヒキ

- 生物分類：ナデシコ目タデ科イヌタデ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：山地や低地の林縁や林下に多い多年草です。細い枝に小さな赤い花をまばらにつける姿が特徴的な植物です。封筒などの飾り紐の「水引」に例えられる花の特徴から、ミズヒキと呼ばれます。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：本駒込2丁目
- 撮影日：2019年10月14日



ヤブミョウガ

- 生物分類：ツククサ目ツククサ科ヤブミョウガ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：林下に見られる多年草です。ミョウガとよく似た形の葉をつけますが、葉の付き方に違いがあり、ミョウガの仲間ではありません。花期は7~9月で、茎の先にツククサの花を小さくしたような白い花をつけます。
- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日



ツククサ

- 生物分類：ツククサ目ツククサ科ツククサ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：路傍などいたるところに生える一年草です。花期は6~10月で、2個の青い花びらが目立つ花を見かけたら、ほぼ間違いなく本種です。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日



ヤマノイモ属の一種

- 生物分類：ヤマノイモ目ヤマノイモ科ヤマノイモ属
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：日本にはヤマノイモの仲間が数種類あります。どれもハート形に似た葉をつけますが、葉の形状や付き方の微妙な特徴の違いで見分けます。この写真のような若い個体にはその特徴がしっかりと表れていないため、種は特定できません。
- 撮影者：たいき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月27日



ヤブタバコ

- 生物分類：キク目キク科ガククビソウ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：低山地の路傍や藪に多い越年草または1回繁殖型の多年草です。花を支えるための細い茎がないため、太い茎にこぶが並んでいるように見えます。種子はネバネバし、独特な匂いがします。
- 撮影者：たいき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月27日



タイワンホトトギス

- 生物分類：ユリ目ユリ科ホトトギス属
- 由来：外来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：日本では西表島にしか自生していない種で、山中の湿った場所に生える多年草です。写真の個体は園芸品種が野生化したものと思われる。
- 撮影者：たいき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月27日



タマスダレ

- 生物分類：キジカクシ目ヒガンバナ科タマスダレ属
- 由来：外来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：観賞用に栽培されている南米原産の多年草です。細長い棒状の葉が、地面から束のように群がって生えている特徴的な姿をしています。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日

シダ類



ベニシダ

- 生物分類：ウラボシ目オシダ科オシダ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：低山地の林下や路傍などに見られる常緑性のシダ植物です。葉が伸び始める春頃の時期には、ベニシダの名前のとおり、葉全体が赤みを帯びます。
- 撮影者：たいき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月27日

菌類



ホウライタケ属の一種か

- 生物分類：ハラタケ目キシメジ科
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：ホウライタケは「蓬莱茸」と書き表されるように、どことなく仙人を連想させる幻想的な姿をしたキノコです。群生することが多いキノコです。ホウライタケ属には毒をもつ種もあります。
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2019年11月10日



ミズゴケノハナ

- 生物分類：ハラタケ目ヌメリガサ科アカヤマタケ属
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：ミズゴケ等の蘚類上に生育することが多いキノコです。落ち葉などを分解して栄養源とする腐生菌です。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日



テングタケ科の一種か

- 生物分類：ハラタケ目
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：テングタケ科のキノコのほとんどは、菌根菌と呼ばれる植物の根に着生して共生するタイプです。単生もしくは散生で発生します。テングタケ科のキノコの多くは毒キノコです。
- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日



フウセンタケ科の一種か

- 生物分類：ハラタケ目
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：傘の表面がささくれ状の小鱗片に覆われていることから、フウセンタケ科のトマヤタケの仲間である可能性が考えられます。フウセンタケ科のキノコの多くは毒キノコです。
- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日



ベニタケ科の一種か

- 生物分類：ハラタケ目
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：傘の質感からはベニタケ科のキノコのように見えますが、ヒダの部分が確認できないことから確実な識別はできません。菌根菌と呼ばれる植物の根に着生して共生するタイプと思われます。ベニタケ科には毒をもつ種もあります。
- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日



ハラタケ科 または ベニタケ科の一種か

- 生物分類：ハラタケ目
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：ハラタケ科またはベニタケ科の一種であると考えられますが、ヒダの部分を確認できないことから確実な識別はできません。ハラタケ科またはベニタケ科には毒をもつ種もあります。

- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日



テングタケ または ガンタケ

- 生物分類：ハラタケ目テングタケ科
- 由来：在来種
- 重要種の指定状況：なし
- 種の特徴：テングタケやガンタケは、傘の表面が灰褐色で白色のイボが多数ちりばめられているのが特徴です。ガンタケであれば、傷をつけると赤変するという特徴があります。テングタケとガンタケは、いずれも毒キノコです。

- 撮影者：たいき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月27日



イグチ科の一種か

- 生物分類：イグチ目
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：イグチ科のキノコは、傘の裏面が通常のキノコのようなひだ状ではなく、目の細かいスポンジ状をしています。イグチ科には毒をもつ種もあります。

- 撮影者：えつき さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月20日



タコウキン科の一種か

- 生物分類：ヒダナシタケ目
- 由来：不明
- 重要種の指定状況：不明
- 種の特徴：多孔質で硬質な皮状のキノコ類で、「多孔菌科」とも書きます。タコウキン科のキノコの多くは、木材を分解して栄養源とする腐朽菌です。

- 撮影者：きょうか さん
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2019年10月14日

<重要種とは>

固有性、希少性、立地依存性、脆弱性や学術性などの観点から重要と考えられる生物種を“重要種”と呼びます。

本アルバムでは、下記に該当する生物種を“重要種”として選定しています。

<重要種のカテゴリー>

レッドデータブック (東京都区部) ※1	レッドリスト (環境省) ※2	基本概念
絶滅 (EX)	絶滅 (EX)	既に絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種
—	絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
留意種 (*)	—	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、留意が必要と考えられるもの

※1:「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(東京都、平成 25 年 3 月)の区部に該当する掲載種

※2:「環境省レッドリスト 2019」(環境省、2019)

<外来種とは>

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物種を“外来種”と呼びます。

本アルバムでは、下記に該当する生物種を“外来種”として選定しています。

- ①「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 法律第 78 号)に基づき指定された特定外来生物
- ②国立研究開発法人国立環境研究所「侵入生物データベース」に掲載の生物種

文京区資源環境部環境政策課

〒112-8555 文京区春日一丁目 16 番 21 号

電話 03 (5803) 1276

文の京生きもの写真館 ホームページ

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bosai/kankyo/jouhou/ikimonosyasinkan.html>